

利他的欺瞞と心理的特性に関する調査

中西 一期

(山口大学教育学部心理学選修)

研究の目的

日常会話で円滑なコミュニケーションや場の空気を乱さないために嘘をつく場面がある。黒川・秋山 (2020) では、欺瞞を利己的欺瞞と利他的欺瞞に分類している。「欺瞞」や「嘘」に関する研究は数多くみられるが、「利他的欺瞞」に焦点をあてた研究はあまりみられない。「利他的欺瞞」とは、美味しくないと料理を美味しいというなど相手を傷つけない、他者のためにつく嘘を意味する。本研究では、具体的な利他的欺瞞場面を設定し、利他的欺瞞をもたらしやすい個人の心理的特性について検討することを目的とする。

方法

大学生 140 名 (平均年齢 19.1 歳($SD=1.45$), 男性 84 名, 女性 56 名) に対して Google フォームを通じて質問紙調査を実施した。質問項目としては、具体的な利他的欺瞞場面 (①A さんがあなたに大学の講義の中間テストの解答用紙を見せながら「中間テストの点数、20 点だったんだよね。単位大丈夫かな?」と聞いてきた。②B さんがあなたと話しているときに髪を染めようかなという話をしていた。後日、B さんがあなたに髪を青色に染めて「髪、派手に青色に染めてみたんだ。めっちゃよくない? どう、似合っている?」と聞いてきた。) に対して、相手との関係性を踏まえながら正直に考えを伝えるか (以後、正直回答)、もしくは利他的欺瞞を行うかどうかを尋ねた。利他的欺瞞場面の設定については大学生 20 名に対して自由記述にて回答を求め、その内容を参考に作成した。心理的特性に関しては、日本語版

Ten Item Personality Inventory (小塩他, 2012) 全 10 項目、協同作業認識尺度 (長濱, 2009) から 9 項目、改訂セルフ・モニタリング尺度 (石原・水野, 1992) 全 13 項目を使用した。全ての質問項目に対して 7 件法にて回答を求めた。

結果と考察

利他的欺瞞場面への回答結果と各尺度間の相関係数を算出した (Table 1)。その結果、利他的欺瞞と日本語版 Ten Item Personality Inventory の協調性との間に有意な正の相関がみられた ($r = .250, p < .05$)。正直回答については、外向性と正の相関がみられ ($r = .190, p < .05$)、協調性とは負の相関がみられた ($r = -.252, p < .05$)。協調性の高い人ほど利他的欺瞞を生じやすいことが考えられる。また、利他的欺瞞と改訂セルフ・モニタリング尺度との間にも有意な正の相関がみられた ($r = .247, p < .05$)。セルフ・モニタリングとは、状況や他者の行動を観察し、自分の行動を統制することであり (石原・水野, 1992)、利他的欺瞞と関連する概念であることが示唆された。

本研究では、利他的欺瞞をもたらしやすい個人の心理的特性に焦点を当てており、相手との関係性による影響を考慮できていない。利他的欺瞞場面①②への回答結果から、心理的距離が遠い場合には利他的欺瞞が生じやすいが、近い場合には場面によって結果にばらつきがあることが示された。それぞれの具体的な利他的欺瞞場面についての特徴を把握できていないためと考えられる。今後は利他的欺瞞場面における環境要因についても検討していく必要がある。

Table 1 利他的欺瞞と各尺度における平均値と標準偏差および相関係数

	M	SD	1	2	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
1.正直回答	3.595	1.329	—						
2.利他的欺瞞	4.693	1.251	-.563 **	—					
3.日本語版Ten Item Personality Inventory									
3-1.外向性	3.382	1.592	.190 *	-.082	—				
3-2.協調性	4.968	1.245	-.252 **	.250 **	-.147	—			
3-3.勤勉性	2.986	1.386	-.079	-.042	.258 **	.200 *	—		
3-4.神経症傾向	4.650	1.400	-.109	.112	-.054	-.251 **	-.241 **	—	
3-5.開放性	3.504	1.334	.029	.031	.342 **	-.051	.195 *	-.109	—
4.改訂版セルフ・モニタリング尺度	4.196	0.985	-.101	.247 **	.327 **	.226 **	.282 **	-.059	.194 *

注) $N=140$, ** $p < .01$, * $p < .05$